

令和6年度 田島中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2-1 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

2-2 「大阪市版チャレンジテストplus」の調査の目的

- (1) 生徒及び保護者が、学習理解度及び学習状況等を知り、目標をもって主体的に学習に取り組めるようにする。
- (2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。
- (3) 学びの連続性を確立する観点から、客観的・経年的なデータを把握、分析し、効果的な指導方法や課題を「見える化」し、その改善に役立てる。

3 「大阪市英語力調査（GTEC）」の調査の目的

- (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るため、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟過程等を把握・検証する。
- (2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の充実や改善、工夫に役立てる。

4 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の調査の目的

- (1) 子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各国公私立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各国公私立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

令和6年度 田島中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

1 全国学力・学習状況調査

学年		生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)	
実施月日			国語	数学	国語	数学
3 年	学校	54	52	44	3.0	14.0
	大阪市	—	56	51	4.1	12.5
4月18日	全国	—	58.1	52.5	3.9	11.3

2 中学生チャレンジテスト

学年		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
実施月日			国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語
3 年	学校	53	60.9	48.0	42.1	39.6	47.8	4.2	5.8	16.6	5.2	8.8
	大阪市	—	65.4	50.2	48.8	39.6	54.0	4.9	4.7	14.8	5.2	6.5
9月3日	大阪府	—	65.2	50.4	49.1	48.3	53.6	5.3	5.0	14.8	6.2	6.9
2 年	学校	65	58.3	40.2	41.6	43.7	42.8	12.0	7.3	12.6	7.7	11.7
	大阪市	—	66.1	49.9	51.4	49.5	54.6	8.4	4.6	8.2	6.1	7.0
1月9日	大阪府	—	65.5	49.5	50.7	47.2	54.0	9.3	5.2	9.5	7.4	7.9
1 年	学校	65	52.1	45.1	47.4	47.6	52.1	8.4	5.9	4.0	6.0	5.0
	大阪市	—	59.0	53.7	50.5	55.6	62.1	8.3	5.5	7.4	3.8	4.9
1月9日	大阪府	—	58.5	—	49.8	—	61.5	9.4	—	8.8	—	5.8

※ 1年生の社会・理科については、「大阪市版チャレンジテストplus」として実施

※ 1年生の理科は物理的領域を選択

※ 2年生の社会はA問題を選択 2年生の理科はB問題を選択

※ 3年生の理科はA問題を選択

3 大阪市英語力調査 (GTEC)

学年		生徒数 (人)	読むこと 【リーディング】	聞くこと 【リスニング】	書くこと 【ライティング】	話すこと 【スピーキング】
実施月日			(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)
3 年	学校	52	86.3	90.5	140.3	94.4
10月15日	大阪市	—	105.7	104.6	149.6	102.1

4 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

学年	生徒数 (人)	握力	上体 起こし	長座 体前屈	反復 横とび	20m シャトル ラン	持久走 男子1500m 女子1000m	50m走	立ち 幅とび	ハンドボール 投げ	体力 合計点
	57	(kg)	(数)	(cm)	(点)	(回)	(秒)	(秒)	(cm)	(m)	(点)
2 年 男 子	学校	29.45	24.88	42.30	46.27	68.48		8.33	192.55	19.03	38.85
	大阪市	28.38	26.42	42.74	51.50	79.76		8.08	194.64	19.84	41.10
	全 国	28.95	25.94	44.47	51.51	78.98		7.99	197.18	20.57	41.86
2 年 女 子	学校	25.71	15.08	44.73	38.95	45.33		9.90	157.00	11.87	39.87
	大阪市	22.99	22.21	45.64	45.86	52.98		9.01	167.01	12.04	47.51
	全 国	23.18	21.56	46.47	45.65	50.67		8.96	166.32	12.40	47.37

令和6年度 田島中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

○全国学力・学習状況調査

＜国語＞

平均正答率は全国と比較して－6.1ポイントとなった。大阪市と比較しても－4ポイントであった。平均無解答率は全国平均よりも0.9ポイント少なく解答をする努力は見られた。3領域を比較すると、「書くこと」の領域が特に全国平均と比べて低かったので、この領域の取組みを重点的に行う必要がある。

＜数学＞

平均正答率は全国と比較して－8.5ポイントとなった。大阪市と比較しても－7ポイントとなった。平均無解答率も全国平均より2.7ポイント多くなっている。4領域においては「数と式」の領域が特に全国平均と比べて低かったので、基礎的な学力の定着が求められる。

○中学生チャレンジテスト(3年生)

＜成果＞

平均正答率は、大阪府と比較してどの教科も低い結果となったが、平均無回答率では大阪府平均より低い教科もあり最後まであきらめずに解答しようとする姿勢がみられる。問題形式に関わらず大阪府平均を超える解答もあった。

＜課題＞

大阪府の平均正答率が比較的高い問題に対する本校の平均正答率が、府よりも低い問題があり、そのような問題に対する正答率を確実に上げる必要がある。

○大阪市英語力調査(GTEC)について

＜成果＞

いずれの分野においても、大阪市の平均を下回る結果であったが、「書くこと」については、大阪市と比較して、9.3ポイント差であり、他の分野よりは差が小さくなっていた。

○中学生チャレンジテスト(1・2年生)・大阪市版チャレンジテストplus(1年生)について

＜成果＞

平均正答率は、大阪府と比較してどの教科も低い結果となったが、1年生の数学、2年生の理科については、大阪府平均との差が小さくなった。平均無回答率が低い教科と、平均正答率の相関関係が見られた。

＜課題＞

記述式の問題に関する正答率を上げる上げる必要があると共に、問題文を正しく読み取る力の育成も必要であるため、「総合的読解力」の育成に取り組む必要がある。

○全国体力・運動能力調査について

＜成果＞

握力は男女とも全国および大阪市の平均を上回る結果となった。

＜課題＞

50m走については全国と比較して、平均より1秒以上下回っており、運動習慣を作るとともに、継続的な活動が必要となっている。

【今後に向けて】

○全国学力・学習状況調査において、基礎的な知識の定着をさらに図るとともにその知識を使って様々な問題に対応できるような授業改善に取り組んでいきたい。また、自己肯定感を高めるためにも、活動の中での成功体験を増やす取組みを考えていきたい。

○中学生チャレンジテスト(3年生)において、基礎的な問題だけでなく、短答式や記述式の問題に対する平均無回答率を下げるためにも、知識を活用して解答する問題への対応ができるよう、授業の中で取り組ませる必要がある。

○大阪市英語力調査(GTEC)において、読むスピードをつけ、時間をあまりかけずに内容を理解できるように取り組む必要がある。そのことが「聞くこと」や「話すこと」につながっていくと考える。

○中学生チャレンジテスト(1・2年生)において、問題を正しく理解し、答えを導き出すための方法を考えていくような力の育成が必要である。記述式の問題に対する平均無回答率を下げるための取り組みが必要である。

○全国体力・運動能力調査において、体力作りや運動習慣をつけさせる取り組みを行っていきたい。